ＤＢＳ－１９－０４

「播磨陰陽師のインタビューノート」

－個人、企業、地球環境までを含めた
ウェルビーイング考察の参考として－

飯塚　まり・佐藤　豪・中川　吉晴
（著者）

2019 年 4 月

（要約）

現存する陰陽師の一人で、播磨陰陽師の尾畑雁多氏を紹介され、2017 年 3 月 15 日、同志社大学 Well-being 研究センターに属する 3 人の教員でインタビューを行った。インタビューを行ったのは、臨床心理･カウンセリング研究の佐藤豪（同志社大学心理学部　教授）、ホリスティック教育研究の中川吉晴（同社会学部　教授）、経営戦略・組織研究の飯塚まり（同ビジネス研究科　教授）である。陰陽師をどう位置付け、どう研究し、また、ここで語られていることをどう検証していくのかは、今後の課題である。ただし、尾畑氏の話には、夢や集団心理などの心のメカニズムや、企業経営、地球環境など、日本人や人類全体の well-being に関連する貴重なヒントがあるようにも思える。少なくとも、3 人の別々の分野の専門家が話を聞き、とつとつと理論整然と語られる尾畑氏の話に違和感を覚えなかったというのは事実である。よって、紙幅の関係上、一部ではあるが、まずは記録を残すこととする。

・著者の許可なく、本ディスカッション・ペ-θパーからの転載、引用を禁じます。

・DBS ディスカッション・ペーパー・シリーズは、オムロン基金により運営されています。

播磨陰陽師のインタビューノート：

個人、企業、地球環境までを含めたウェルビーイング考察の参考として[1]

同志社大学大学院ビジネス研究科　　飯塚　まり[2]
同志社大学心理学部・心理学研究科　佐藤　豪
同志社大学社会学部・社会学研究科　中川　吉晴

現存する陰陽師の一人で、播磨陰陽師の尾畑雁多氏を紹介され、2017 年 3 月 15 日、同志社大学 Well-being 研究センターに属する 3 人の教員でインタビューを行った。本稿は研究ノートとして、その一部を紹介するものである。

インタビューを行ったのは、臨床心理・カウンセリング研究の佐藤豪（同志社大学心理学部　教授)、ホリスティック教育研究の中川吉晴（同社会学部　教授)、経営戦略・組織研究の飯塚まり（同ビジネス研究科　教授）である。場所は、同志社大学ビジネス研究科のある寒梅館においてである。また、尾畑氏の紹介者および解説者として、日本におけるNLP（Neuro Linguistic Programing、神経言語プログラミング）の草分け的存在である金蔵院葉子氏（ホロン PBI 代表）が加わった。このインタビューに先駆けて、飯塚は、2016年から金蔵院氏に数回インタビューを行い、また、2017 年 2 月にも尾畑氏を加えてのインタビューを行っている。

欧米のマインドフルネスや well-being に関する思想の背景には、テーラワーダ仏教（小乗仏教）や、チベット仏教、禅（大乗仏教）など仏教の影響が色濃い。いわゆる悟りへの道が、幸福につながるという考えである。しかし、日本人にとっての well-being を考える上では、仏教の世界とは違った角度の考え方も重要なのではないか。そのような模索の過程で、播磨陰陽師の尾畑氏に出会った。陰陽師というと、小説、アニメ、映画などに出てくる安倍晴明を思い浮かべるが、播磨陰陽師の尾畑氏は、「軍師（戦略・組織)」としての性格がより濃い。

陰陽師の研究を学術的に行おうとすると、いくつかの壁にでくわす。陰陽師の家系に生まれ一子相伝の陰陽師となった人は、たとえ出会うことができたとしても、非常に特殊かつ稀な職業の方なので、サンプルサイズは N＝1のようなとてつもなく少ないものとなってしまう。また、Evidence Based で料理できるような領域ではない。そこでできるのは、詳細なケーススタディであり、Anthropology のアプローチが必要なのであろう。

---

[1] 本稿は、「トランスパーソナル心理学/精神医学　（特集：トランスパーソナル心理学とウェルビーイング」 Vol.18, No.1（2019）に掲載予定である。

[2] miizuka@mail.doshisha.ac.jp

よって、陰陽師をどう位置付け、どう研究し、また、ここで語られていることをどう検証していくのかは、今後の課題である。ただし、以下で述べられる尾畑氏の話には、夢や集団心理などの心のメカニズムや、企業経営、地球環境など、日本人や人類全体の well-being に関連する貴重なヒントがあるようにも思える。少なくとも、3 人の別々の分野の専門家が話を聞き、とつとつと理論整然と語られる話に違和感を覚えなかったというのは事実である。よって、まずは記録を残すこととする。

1.　現存する陰陽師について

陰陽師はあまり知られていないようなのですが？

それは、今、陰陽道をやっている人がほとんどいないからですね。それは、明治時代に追討令が出たからです。天皇に使える官吏であった陰陽師は、宮中では、暦の管理などで忙しかった。しかし、陰陽師は、各藩にもいたんです。播磨国でやっていた陰陽師は暦の監理ではなく、軍師とか軍学とかが得意だった。こういう人たちは、戦争ができるので、明治政府にとっては、幕府を復活させるかもしれないという恐れがあり、そこで追討令が出されたのです。

神仙道と呼ばれる人たちは政府に取り込まれて神道が復活して神仙道というグループができ宮地神仙道とかいろいろあり、それらは陰陽道系ですね。あと、神社になった所もありますし、お寺になった所もあります。我々は絶対に宗教をつくってはいけないと言われているので、そこにはいきませんでした。

明治の追悼例により、自分たちの祖先は、北海道の誰も追ってこられない所に逃げ、そこは氷点下 40 度くらいになる所でした。陰陽師としては食べていけないので、普通の仕事をしていました。また、自分は、そのため北海道で生まれ、ずっと北海道で育ちました。

現存する陰陽師は何人ぐらいいるのですか？

今でも、陰陽師は、まだ 40～50 人残っています。活動している人は 10 人くらいしかいませんけど。私は活動している方ですね。日本各地でセミナーをしている。この 10 人もたいていは、セミナー講師業をしています。今どき、人を呪っても仕方ないので。

陰陽師は、伊勢にも一人いますし、岡山にも一人います。岐阜の方にもいますね。四国にも陰陽道があり、いくつか流派があるんですが、今どき呪いとかやっているのは四国のいざなぎ流の人たちだけです。彼らは今でも昔っぽい服装で、昔っぽくやっていますよ。

我々は、祖母の代、60 年ぐらい前はやっていましたが、もう止めました。呪いは、仕事なので、自分には来ないようにちゃんとやるわけですが、命あっての物種なので。引き受けている人はいるんですよ。だいたい 40 歳くらいで死にますけど。何人かの知り合いが死にました。僕はもうちょっと長生きがしたいのでやりません。

そして、それとは別に「陰陽師」を名乗っている方はどんどん増えています。

陰陽師には家系上なるのか、それとも勉強してなれるのですか？

陰陽師には、一応ランクがあるんです。上層部があって、それは血筋がないと無理なんです。 あとは霊能力があるとか厳しい条件があって、上の方は 10 人くらいしかいいません。一方、下のランクで、血筋関係なく勉強して「陰陽師」を名乗っている人は山ほどいます。

播磨陰陽師を名乗るのは？

播磨国は陰陽師のふるさとなので、播磨の陰陽師を名乗ればそれは陰陽道の中心にいるという意味になります。他の人は滅したので、今、播磨陰陽師と名乗れるのは僕だけです。ただ、播磨で陰陽師をしている人は増えてはいますけど。

２．　尾畑氏の来歴について

一子相伝の世界だが、世間に広める掟も

昔から、陰陽師は一族の中の一人だけがやっていくことになっていて、一子相伝だったんです。しかし、厄年を過ぎて 41 歳までに伝承者を見つけられなかったら、今度は、世間に広めるのが決まりになっているんです。僕は伝承者がいなかったので、41 歳までは誰にも言わなかったのですが、それからは、自分の知っていることを外に広めています。ですので、聞かれたら何でも答えています。（金蔵院氏は、尾畑氏と旧知の仲だが、彼がカミングアウトするまで、陰陽師だとは知らなかったそうだ。）

一族中で選ばれる

一族の中で、霊能力のあるものが一人、陰陽師になるように選ばれるのですが、その霊能力は、生まれつきのものでおしるしがあります。自分は、正式な後継者ではなく、後継者としては従兄弟がいて、そのバックアップとして育ちました。また、自分の弟は選ばれず普通の会社勤めをしています。自分が今、陰陽師として活動しているのは、その後継者が亡くなってしまったからです。

自分は、物心がついた瞬間の記憶があるんですよね。ベビーベッドで寝ていたら、はっと自分のことがわかった瞬間があって、ベビーベッドの前にネコがいっぱいいて、上からじっと見ていて、ニャーと鳴いていたのが最初の記憶なんですね。どこへ行ってもネコが近づいてきたりします。ネコは夢の世界に属するといわれていて、眠りの子（眠ル子＝ネコ）という意味なんです。ネコの何％かにはネコではない化物が混じっているともいわれていますので、ネコに愛されるというのはそちらの力があるということになるんです。

陰陽師になるための霊能力ですが、我々が 15 歳くらいになるまでに、一般の霊能者が体

験するすべての物事を体験しなければならないんですよね。幽霊を見たり、連れて行かれたり、そういうことを体験するんです。神隠しにあったり、猫がついてきたり、自然に起こる出来事です。

勉強～播磨陰陽師の３つの柱

　三種の神器がありますね。鏡と刀と勾玉。あれになぞらえて、播磨陰陽師には、大きく３つの柱があって、それに沿って、勉強するんです。

　鏡は神事ですので、祝詞をあげたり手の打ち方や礼の仕方などの儀礼を勉強して、あとは古事記や日本書紀を読んだりもします。

　刀の部分は武術をやったり、六韜三略とか孫子の兵法を読んだりします。戦争系の勉強ということです。

　勾玉は、幽霊は何とか狐憑きは何とか、霊術の学びのところなので、見分け方とか対処の仕方を勉強します。この人は、本当に狂っているだけだからこうしろとか、そんなことを勉強します。夢は霊術に入ります。夢の正体とか、その夢を見た人はどうだとか、そういうものを学びます。

陰陽師の携わる仕事～時代の最先端の仕事

　陰陽師というのは最先端のいろんなものを取り入れるというのが一応の決まりなんですね。そこで、その時代の最先端の仕事をすることになっているんです。自分の場合は、ゲームのクリエイターをしていました。コンピューターゲームの創成期に、シリコンバレーにずっといて、超ブラックな会社でカンヅメになってゲームを作っていました。そうしたら、目をやられてしまって、とうとう目玉が人工のレンズです。

　でも目が見えないというわけでもない。幽霊などが、普通に見えるものだから。先日もバスに乗っていて、終点の １ つ前で降りて振り返ったら、一番後ろの席に女の人がいたので、終点まで行ってどうするんだろうと言ったら、「誰もいないよ」と言われたので、ああそうなんだと。生きている人にしか見えないので、僕には全然わからないです。全く違いはないんですよ。たまに違っていても気づきません。

後継者

　自分が死んでいなくなったら、後継者がいなくてどうするのかと聞かれるのですが、「然るべきときに然るべき人が出てきて、その人が夢の中で学んでいく」と思います。夢の中に教える人が出てきて、これを読めとかあれを読めとか指示がきます。そのための情報はクラウドにあるから、大丈夫なんです。

　このことは、最初は偶然だと思っていたんですけど、たとえば、必要な本があって、それを江戸時代に書いた本人が夢の中に出てきて、「ここに行けばあるよ」と言われて、嘘だろうと思ったんですけど行ってみたらあったということもありました。そういう世界なの

で仕方がないんですよ。（中川が、チベットの経典が夢の中で伝達される話と類似しているとコメント。）

３．夢について

集団の見る夢に注目

「先ほどの夢の話、夢の中に入っていくとか夢の解釈をするとか、僕も臨床的にクライエントとカウンセリングするときに夢を聞いたりもするのですが、そこにいろいろなものが現れたりするということがあるし、ユング心理学的には集合的無意識とかいろいろな伝承の話だと過去からずっと引き継いでいるものがあるかもしれない、というような話がいろいろ出てきますよね。そうすると、今のお話はそういうものと一致しているような感じがしてとても面白いのですが、人間の夢というのは、どんなふうに扱うのでしょうか。」（佐藤問）

夢の多くはトイレに行きたいから見るとか、勉強しすぎて頭が一杯になっているから記憶を整理するために見るとか、いろいろ種類があるんですけど、やはり一割くらいはそういう象徴的な夢があります。その中にもいろんな種類があるので、そこを解釈するという形でやっています。何度も同じ夢を見るとかになると、そういう形で象徴が出てくるという感じです。

我々は一人の夢はどうでもよくて､たとえば同じような怖い夢を見た人が３人現れたら、これには意味があると考えるんです。世の中がおかしくなっていて不安な状態があるからそういう夢を見ると判断するわけです。そしてその何人かの人に「これはいい夢なんですよ」と言えば、世の中そのものが変更されると考えているんです。クラウドに影響を与えるということですね。

集合意識へ影響を与える

「そうすると、そういう大きな無意識というものがあって、我々には個人個人の意識から集合的無意識みたいなものがあって、そこに影響を及ぼして、それが大袈裟に言うと我々の運命を変えているという形でしょうか。」（佐藤問）

そうですね。たとえば戦国時代だと、兵隊の何人かが負けて殿が首を切られる夢を見ましたと言うと、ざわざわして負けるんですよね。でも、それは実は良い象徴で、向こうの殿様を切るのに顔がわからないからこちらの殿様の顔が出てきたんだと解釈すれば、皆がやる気になって攻めていくという現象になるので、そういうふうにコントロールしていくわけです。

治療への応用

「そうすると、手前勝手な言い方をすると、そういうふうな発想でいけば夢を治療的に使えるわけですね。たとえばあるクライエントが非常にネガティブな夢を見ているのを、いやそれはそうではなくてというポジティブな切り替えをして無意識の中が変わっていくと、変わっていくことになりますよね。」(佐藤問)

そうですね。元々は戦国時代の軍事テクノロジーなので、今はあまり使いませんけど。

４．　　武術について

集団意識に対抗するための武術

「集団意識に対して、それを分析して、逆方向のものを与えるためには、集団意識に巻き込まれないようなトレーニングが必要になってきますよね。」(飯塚問)

そうです。そういうトレーニングをするんですけど、武術でやるんです。陰陽師というのは、軍師です。　軍師なので、お金がなくても知恵があればなんとかなるよ、という世界です。

武術で播磨御式神内（はりまこしきうち）というのをやっています。武術を使ってコントロールするものは 3 つあります。手先足先のコントロール、脳のコントロール、そして強さのコントロールです。強さのコントロールというのは、例えば、見た目は弱いけど闘ったら実は強いんだよ、ということを周囲に思わせ、周りを威嚇しておく。できる限り体力を使わない状態で勝てるような戦略を頭の中で組むというのが基本です。だから、心理戦をしていき、頭が良かったら勝てるという話です。(なので武術のために、腕立て伏せをするなどというようなことは、絶対にしません。)

武術にはいくつかのポイントがあるのですが、要は殺気のコントロールなんですよね。人間は生きていると必ず殺気があって、たとえば誰かに殴られて「殺す」と思ったり、その後に「あ、殺すのはダメなんだ」と後悔したりするのですが、「1 秒だけなら殺してもいいよ、そういう思いを持ってもいいんだよ」と言うと、気持ちが楽になるんですね。そういうことで殺気をコントロールしていって、うまく逃していくという方法をとっています。

気配を消すこと、動く瞑想としての武術

「さきほど、待っていただいている間、この会議室では一切気配が感じられなかったのですが。気配を消しておられたのですか。」(飯塚問)

「今のお話を聴いていて、僕らが時々言うのは自律神経系で内臓脳という考え方を持っていて、要するに自律神経というのは勝手に動いているんだけれども、それをどれくらい

コントロールできるかということで、僕らは自律訓練のようなリラクセーションをしながら副交感神経を働かせて交感神経とのバランスをとるという考え方をします。殺気とおっしゃったのがそれに当たるかどうかはわかりませんが、交感神経が興奮しすぎてキリキリしていたら、それは周りにもわかってしまうし、そのバランスを武術ではすごくとっていくということになるんですかね。」（佐藤問）

　そうですね。気配を消しているのではなくて、脳の中で処理が行われていないので、わからないんですよね。感情も同じです。怒りは必要なときに出せばいいので、普通は出しません。普通は無駄に怒ったり泣いたりしているだけなんですよ。武術でコントロールすると、無駄なことがなくなるので、必要なときは出すし不要なときはじっとしているということです。脳も肉体の一部なので、肉体を鍛えないと脳も鍛えられないんですよ、実は。ですので、武術をやるのが一番いいですね。（でも、空手とかをやると殴りたくなるので。あれは武術ではないですね。中国から来た拳法なので。）

　武術の定義は、最初は日本の武の神の技を伝えることで、合気上げという、手を止められているのを上に上げる力比べが最初の武術の神が行った技なので。それに近づくためにひたすら腕を上げる訓練をやるんです。どちらかと言うと瞑想に近いですね。動く瞑想みたいな感じですね。3 人が刀で斬りかかってきたら。ものを考えていたら斬られるんですよ。ですから無意識の状態になって、何か風が吹いたらそれに対応するように捌くしかないんですよ。

５．頑張らない～ポジティブが勝手に出てくるという考え方について

ポジティブな感情はコントロールするものなのか？

　「武術では怒りとか殺気とかネガティブな感情をコントロールするとすると、ポジティブな感情はどうですか。」（佐藤問）

　西洋の心理学では「目標に向かって頑張りましょう」というものだと思うんですけど、我々は目標があってそれを阻害する何かがあればそれを除去すればいいと考えるんですね。そうすれば、ポジティブが勝手に出てくるんですよ。

西洋の志向との違い

　「それはすごく面白い発想ですね。フロイト的にはそれは逆で、ネガティブなものがあって、それをなんとかコントロールしていかなければならない。ユングの方がむしろ内面的なものの中にポジティブな示唆があるということを言っているんですけど、どちらにしても西洋的な考えというのはアチーブメントが大事で、とにかく頑張っていくという話に

なりますよね。マインドフルネスのベースにもそういうものがあると思うんですけど、そのままでいてもその中にいろんなプラスがあって、それを出してくればいいという話は、まさにそういう発想ですよね。」（佐藤問）

軍隊の臨時雇いは農民が主で、その人たちはすごくネガティブだったり、酒を飲んで酔っ払いたかったりするんですけど、その人たちのネガティブさを取り除くと強い軍隊になるので、勝てるんですよ。それを鞭打って頑張れと言っても、絶対に勝てません。一緒に酒を飲んで騒いだりして仲良くなったり、夢の話をして仲良くなったり。仲良くなったら皆が頑張ってくれる、みたいな。ほとんど心理学みたいなものですね。

自然は頑張らない

「心理療法をやっていて一番思うのは、その人の中にあるものがふっと出てくればその人は良くなっていくんですね。いろいろああでもないこうでもないと目先のことをやったり、クライエントに何か課題を設定して頑張らせるのではなくて、こちらがゆったり構えていて、相手がほっとするとその中の良いものが出てきて変わっていくという発想ですよね。」　（佐藤問）

自然はどんなことがあっても絶対に頑張らないので、自然に生きれば頑張る必要はないんですよ。

６．神との関係について

神を信仰しない、宗教家にならない、神を使役する

我々は宗教家ではないので、神を信仰することはないんですよ。目の前にどんな神がいても、「あ、そうなの」と言うくらいなんですよ。我々は「神をコントロールする」と言うんですけど、使役するんですよ。神を騙して使いこなすというのが基本なので。自分の人格を上げていけば使える神はいっぱいあるんですけど、下がっていると使えないんですよね。上がっていくと貧乏神や疫病神が使いこなせるようになり、もっと上がるともっと良い神が使えるようになってきます。そのために人格を上げるわけです。

貧乏神

貧乏神が来ると、毎回同じことの繰り返しという同一の状態が来るんですよね。そいつに会ったら帰ってもらうという夢の技法があるんですね。貧乏神が来ると、必ず自分の部屋で寝ている夢を見るんですよ。ボロボロの服装のおじいちゃんが来て、「お前のところに2、3 日逗留するから」と言って、存在しないはずの 2 階に上がっていくという夢を見るん

ですよ。そのときに「上がっちゃダメ」と言えれば、来ないわけですよね。江戸時代の記録にも残っていますし、そこら中の記録に残っています。普通の人がそんな夢を見ても、よくわからないのですが、それを記憶して、肝心なところで自分が勧誘できるようにするのが夢の技法なんです。

神には、いろんな種類がいるんですけど、疫病神、貧乏神、死神というのは悪い神の代表ですね。日本の死神は小さい女の子で、死ぬときに苦しみがないように道案内をしてくれる神です。

７．お祓いについて

移動を依頼

幽霊や貧乏神を見ることがあるが、コンタクトはとりません。祓うだけですので、祓う対象とコンタクトしても仕方がないんです。祓うといっても成仏させるとかではなくて、そこからどこかへ行ってください、という感じです。この現象には何か悪いところがあって、悪いことが起きているわけで、それを解けば良い現象に変わるんですよね。他のところへ行けば違う現象を起こすので、ちょっとよけてくださいと丁寧に頼むだけです。

呪いと祝詞

呪いの 9 割は気のせいですけどね。本物の呪いはそんなものではなくて、誰かが死んだりするので。でも、気のせいでも、お祓いをしてなんとかしましたと言えば、気のせいが良い方向に変わります。

お祓いというのは、罪や穢れを祓うだけです。人は生きていると悪口を考えたり変なものを食べたりいろいろしますよね。そうすると、罪や穢れが溜まっていくんですよ。それがしばらくすると、引換券のように不幸な出来事に変わるんですよ。ですから、それが起きないように穢れを減らすのがお祓いです。

頭の中で悪い言葉がぐるぐる渦を巻いているんですよ。それを良い言葉に変えればいいんですけど、難しいので、昔からある良い言葉の集まりである祝詞を唱えて強制的にその振動を当てて、頭の中の悪い言葉をどこかへやってしまうという発想です。すると、本人は理解できなくても、その振動が頭に入ってきて、何となく気分が変わるという感じです。祝詞の CD でも役に立ちます。（般若心経の CD は、日本語ではないのであまり役には立たないでしょう。）祝詞の日本語は、人間の一番コアな部分に記憶されている言葉だと考えられているんです。コアな部分だからわかってもわからなくても、その振動そのものが効くという感じです。

神社とかで祝詞をやってくれますがが、やっぱり、する人の能力によります。祝詞は抑揚をつけて詠んでいたのに、大正時代には汎用性が必要なので、誰でも唱えられるように

平坦にやるように変わったんです。そこで、ヴァイブレーション能力が下がってしまった。自分は、本来の古いやり方で歌うような祝詞をあげています。これは、練習すればできますが、最後の一線を越えられるかどうかは才能によってきます。

払うのか取りこんで変化させるのか？

「邪気を払うということがあるじゃないですか。邪悪なものは外に行ってもらうと。チベット仏教では邪悪なものをつくり変えてもっときれいなものにしようという、エネルギーを変えるような発想があるんですけど、スピリチュアリティの中で、汚いものを外していくのと、汚いものを取り込んでもそれをきれいにできるというのでは、根本的にアプローチが違うのでしょうか。」（中川問）

考え方として、絶対悪というものがないんですよ。組み合わせで悪いだけで、他所では良いことかもしれない。なので、祓ったら、たとえば隣に行って、それは新しい組み合わせで良いことかもしれないので、そこに懸けるわけです。たとえば、バーなどで、一人で酔っ払うと暴れるけど、隣に連れて行くと酔っ払ってもシラフに戻る、というような話です。

「インドの尊師のような人を見ていると、他人の悪いものを吸収するような能力があったりしますね。それは外にやるのではなくて自分が吸収しているので、がんで死ぬ人が多いんですよ。」（中川問）

彼らの技法では 100％吸い取るんですよね。我々の技法だと 50％なんですよね。あとは違うところに移動させるので。

そこで傷んだ 50％は温泉につかったりして自分で癒やすわけです。我々は、そういう寿命を延ばす技法をいっぱい持っているんですよ。気功とかをやると自分の気をだんだん出すので早死にするんですよね。でも、我々の技法は早死にしないんですよ。

私たちの浄化は、自然に任せるんです。自然の浄化システムと少し折り合って、そこに任せてしまうわけです。陰陽道の思想は、自分の力ではどうにもならないことは自然に任せる、頑張らないということです。

穢れ

「普通に生活していると、いろいろこびりつくようにやって来るので、本人に自覚がなくても妙に疲れたりしますよね。それに対してはどう対処するのですか。」（中川問）

それを罪や穢れという言い方で呼ぶんです。穢れというのは汚いという意味ではなくて、「気が枯れる」ということです。罪は同じことを繰り返すことで、咎というのは人に後ろ

指を指されるようなことをすることです。過ちというのはそれらを何度も繰り返すことです。それらは少しずつ溜まっていくので、祓ってみたり温泉に行ってみたり、皆で笑ってみたりして治すわけです。

陰陽道ではどこで寝るかというのも大事なんですよ。たとえば墓場で眠ると変な夢を見たりしますので。また、誰と付き合うかについても、ネガティブな友だちがいたらネガティブな情報しか来ないので、付き合うのを止めましょう、というのが基本ですね。それだけをひたすら繰り返すので、人生が変わっていくのです。コンビニの弁当をずっと食べていたら内臓をやられますから、頭もおかしくなっていくわけです。それを食べていてもいいですけど、たまにはちゃんとしたものを食べようということです。それで節句のところでリセットするのに、皆でおいしいものを食べに行く会を催したりしますね。

８．パワーに関しての決まりについて

額を隠す

「ところで、どうしてバンダナをして額を隠しているんですか。」(飯塚問)

これは烏帽子の代わりなんですよ。本来は陰陽師としては月（陰）と太陽（陽）のマークの付いた烏帽子をかぶって歩くべきなんですが、象徴ですね。代わりに青い三角形の布を着けるというのもあり、黒いのもあって、死ぬと白いものになるのでお葬式でよく見るような形になるんですね。これは神烏帽子というんです。ですので、これをしているんですけど。

もう一つの理由は、それは前頭葉とか、額を出していて、周りの人が影響されると怖いので。出ちゃうんですよ。よくフェリーで門司港に帰るときは、いっぱいいる人の中で寝ていたりして、そうすると時々悪夢を見るんですよね。そうすると、周りの子どもたちが同じ悪夢を見て泣き出すんですね。こういう怖い夢を見たと、全員同じことを言うんですよ。そういうふうに出てきてしまうので、封印しておいた方がいいかと思って。

自分のパワーに関する決まり事

「たとえばある人と話しているときに自分のパワーを使ってその人の気分を変えたりすることもできるんですね。たとえばシュタイナーはそれはやってはいけないと言っていましたし、そのことに対してのいろんな決まり事があったりするんでしょうか。」(飯塚問)

決まり事はあるのですが、誰かと誰かが出会って話せば当然影響を受けるんですね。会っていなかった未来と会った未来は違う未来なので、そういう細かいことは気にしないんですけど、悪いことはしてはいけないというのと、宗教をつくってはいけないという決まりがあります。

人を集めてお布施をもらって、誰かを指導したり偉そうにしたりしてはいけないということです。宗教はそうしていますよね。でもそれをすると永続せず、滅びる原因です。我々はそれを学んでいるので、人を導いたり教えたりしてはいけないことになっています。ただ、聞かれたことに答えればいいということです。他人をコントロールするよりも、自分をコントロールする方に忙しいので。
もう一つの決まりは、悪いことをしてはならないという決まりなので。

安易に助けてはいけない

「たとえば尾畑さんならいろんな不思議な力を出せば、それをすぐ信じる人もすごくいて、でもそういう人はすごく依存的で、お金はいくらでも出すので助けてほしいような人が集まってしまいそうな気がします。」（飯塚）

でも我々には決まりがあって、助けてはならないものは絶対に助けてはならないんですよ。つまり、自分が悪いことをしてそれが返ってきているような本人の自業自得で苦しんでいる人を助けてはならないんですよ。その判断をして、「今回は自業自得だから助けません、以上。」みたいな感じですね。そんなのが多いです。
自業自得ではなくて、何か変なめぐり合わせでそういうふうになっていても、助けてくれと言われなければ助けません。決まりだから、目の前で見ても助けません。
それと、命を懸けて助けても良いと思ったときだけ助けるというのが基本です。命を懸けても良いと思うということは、何が起こるかわからないからということもありますし、覚悟がないと助けられないので。自分の偽善的な気持ちで助けてしまうと、後で大変なことになってしまうことがあるので。そうすると、ものすごくハードルが高いわけで、ですから、ほとんど助けません。

９．ご神木の役割とたたりについて

ご神木のたたり

仕事としては、御神木の祟り系統のお祓いが一番多いですね。御神木を切ったら人が死んだからなんとかしてください、みたいなものが多いですね。不思議なことに、ご神木を切ることもあるのです。（金蔵院：今ちょっと問題になっているのは、大阪の有名な XX 神社の木を宮司さんが切っていて、頭がおかしくなったということです。三輪の YY 神社もそれで揉めていたりしますよね。）あとは、台風で木が倒れて、仕方なく切ったらそれが御神木だったので祟られた、というのもよく依頼が来ますね。
御神木の件でも、命懸けになることがあるんですよ。今回は死ぬかな、みたいなことがあります。辛うじて生きていますけど。御神木が切られてしまったときにお祓いすると、大変なことが起きます。ですから、2 人死んだら言ってくださいと。3 人目は助けますと。

なので、2 人死んだ現場ばかりですね。

たいがいはどの祟りも 3 人死んだら終わります。なので、2 人死んだら 3 人目は助けるということです。1 人目が死んだときに助けたら僕が死ぬかもしれないので。

樹木療法と魂魄

「樹木療法というのがありましたよね。木に抱きつくという療法で、やっぱりあれは意味があるんですね。」（飯塚）

意味があると思いますね。何千年も生きる生命なので。木は人間でいうと、地球に生えている毛なんですよね。下に気が流れていて、それが表された状態なので。ですから、地球自体が癒やしてくれるという現象です。

御神木の祟りが大変なのは、それはご神木という自然の中の、人間の魂を浄化するシステムの中で起きる祟りだからです。死ぬと地下水脈を伝わって、悪い意識が山に上るんですよ。それを吸収して木が浄化していくんですけど、切るとそこから悪い意識が出てくるんですね。それにやられるということです。（金蔵院：魂魄と言いますよね。魄というのがすべての災いの原因だそうです。魂は良きもので天に昇って、良い世界をつくるそうですが、魄は、ネガティブな思いなどのことで地獄につながる世界をつくると考えられているようです。そして魄は地下に行く。そして御神木に吸い取られ、浄化されて天に昇っていくんだそうです。そういうシステムになっているんですね。ご神木は、木が大きいからたくさん吸い上げているんですね。）

環境破壊

「やっぱり環境破壊とか、今やっていることというのは自殺行為だということですか。」（飯塚）

そうですね。人間も自然の一部なので、自然を壊せば人間も壊れるので。

最後に　（インタビューを終えて）

このインタビューを終えた時点で、2018 年 2 月 24 日のトランスパーソナル心理学・精神学会に合わせての講演会で、お話をしていただこうかということが話された。しかしながら、スケジュールの関係などで、それはかなわなかった。示唆に富む内容のお話であったので、インタビュー調査を続ける予定である。また、今回は、紙幅の関係から、インタビューの中で出てきたそのほかの興味深い話を割愛している。折があれば、それも含めて、考察、発表をしていきたい。

謝辞

本研究は、同志社大学大学院ビジネス研究科オムロン基金プロジェクトの一部として行われており、ここに謝辞を表する。